

令和7年度第三者評価 改善状況報告書

令和8年5月29日

施設名	がん在宅緩和ケア支援センター ういケアみなと	施設所管課	みなと保健所 健康推進課健康づくり係
所在地	港区白金台4-6-2 ゆかしの杜5階	指定管理者	学校法人慈恵大学

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和8年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和8年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
SNS等を活用した継続的かつ戦略的な情報発信の強化により、若年層や就労世代を含む幅広い層への認知向上が期待されます。今後は、これらの取り組みをより広く社会に発信し、施設の価値や活動内容の理解促進につなげていくことが望まれます。		ホームページに、イベント開催の様子を「ダイアリー」として掲載し、活動内容の周知に努めた。働く世代、子育て世代対象のプログラムの広報にはSNSや都のポータルサイトを活用するなど、届きたい相手に合わせた情報提供の方法を検討し、実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの充実（新コンテンツの作成）</li> <li>・SNSの活用促進</li> <li>・患者支援団体とのネットワークを活用した広報</li> <li>・港区LINEや東京都ポータルサイトなどの効果的な活用</li> </ul>	ホームページ等への掲載による周知に加え、イベントの実施を通じて施設の活動内容への理解を促進し、幅広い年齢層における来場者数の増加につながることを期待します。
コロナ禍に類似した状況が再び発生した場合に備え、交流事業や連携事業の実施方法を柔軟に切り替えられる体制をあらかじめ整備しておくことが期待されます。 また、震災などの大規模災害を想定した具体的なシミュレーションを平時から実施することで、より実効性の高い安全管理体制の構築につながることを望まれます。		継続してハイブリッド方式のセミナーを実施し、有事に他のセミナーも切り替えて実施できるよう、ノウハウを蓄積している。 建物全体の避難訓練への参加を必須としており、施設共有会議では、非常時に備えた対策を協議している。 部署内では、防火管理者を中心に、災害時机上訓練を実施してシミュレーションを重ねている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業継続計画（BCP）の作成</li> <li>・施設の感染対策指針を改めて明示し、スタッフミーティングで共有したうえで、集合型のセミナーを継続している</li> <li>・セミナーの動画配信による情報発信</li> <li>・建物全体の避難訓練への参加</li> <li>・実践に即した災害時机上訓練</li> </ul>	セミナーや防災訓練の実施そのものを到達点とするのではなく、これらを通じて得られた対応力や知識が、有事における実践的な対応力の向上に結びついているかを所管課として動向を注視するとともに、今後も対応力のさらなる向上に向けた取組が継続されるよう、引き続き指導・助言を行ってまいります。
治療法に関する相談に加え、在宅ケアの在り方や終末期の過ごし方など、幅広いテーマに対応できる体制が求められています。 こうしたニーズに対応するためには、地域の医療・福祉・介護資源を活用するとともに、区内外の大学病院や研究機関、行政等との情報連携を強化し、がん対策に関わる地域資源を効果的に活用していくことが期待されます。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・区外行政関係者等の見学受入、情報連携</li> <li>・がん診療連携拠点病院との連携活動（セミナーの講師依頼など）</li> <li>・区民団体との連携企画の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん診療連携拠点病院との連携活動（セミナーの講師依頼など）</li> <li>・港区行政、地域包括ケア関連、三師会、教育委員会、区内図書館、大学、NPOや任意団体などとの連携活動の充実</li> </ul>	情報連携及び連携企画の実施を通じ、幅広いテーマやニーズへの対応力の向上が図られていることを区として十分に確認するとともに、今後も、報告内容を精査のうえ、必要に応じて適切な指導・助言を行ってまいります。